

園部藩の成立



元和5年（1619）小出吉親が但馬出石から入封し、船井郡131ヶ村、桑田郡52ヶ村、何鹿（いかるが）郡10ヶ村、上野国甘楽郡4ヶ村総石高29、711石で園部藩は成立しました。小出吉親は入封に際して、仮館を宍人の小畠太郎兵衛宅に逗留し、城地完成を待った。園部城は中世の荒木氏の居城園部城を拡大し、小向山とその南東部の洪積台地に園部城を築城しました。南北600m、東西400mであったといわれています。中世園部城は小麦山丘陵群中央にあり、城を取り巻くように天神社、大乘寺、香林寺、福量寺などの社寺に守られた平山城であった。園部藩は外様大名であったので天守閣は築かれず、陣屋づくりであったといえます。北門の釘貫門から北に宮町が東西には山陰道（京街道）が通り、西から上本町、本町、新町が南には裏町（若松町）が作られました。宮町には銀札所、掛屋があり、園部城下の経済の中心であったといえます。また、上本町、本町、新町は商業の中心であったといえます。裏町は園部川を利用した物資の積み出し地でありました。園部城下町の長さは「丹波誌」によれば、宮町釘貫門から札の辻まで2町35間、上本町櫛形から本町下櫛形までは3町59間本町下櫛形から新町櫛形までは4町43間あったといえます。小出吉親は5つの城下町を作る際に小向山北側を東流していた園部川を北側に迂回させる工事をしたといわれています。園部城跡は現在は

京都府立園部高等学校となっています。